



災害に強いまちづくり

豊かな自然や四季に恵まれた日本は、同時にさまざまな自然の脅威にさらされる「災害大国」ともいえます。地震や風水害、火災などの災害に強い生活環境をつくるには、住民や行政が力を合わせることが大切です。

未曾有の災害に直面し、防災について大きな関心が寄せられる今日、野方図書館では「防災まちづくり」に関する資料を展示しています。

防災という視点からまちづくりを見直してみませんか？

展示期間：2011年8月27日～2011年10月27日

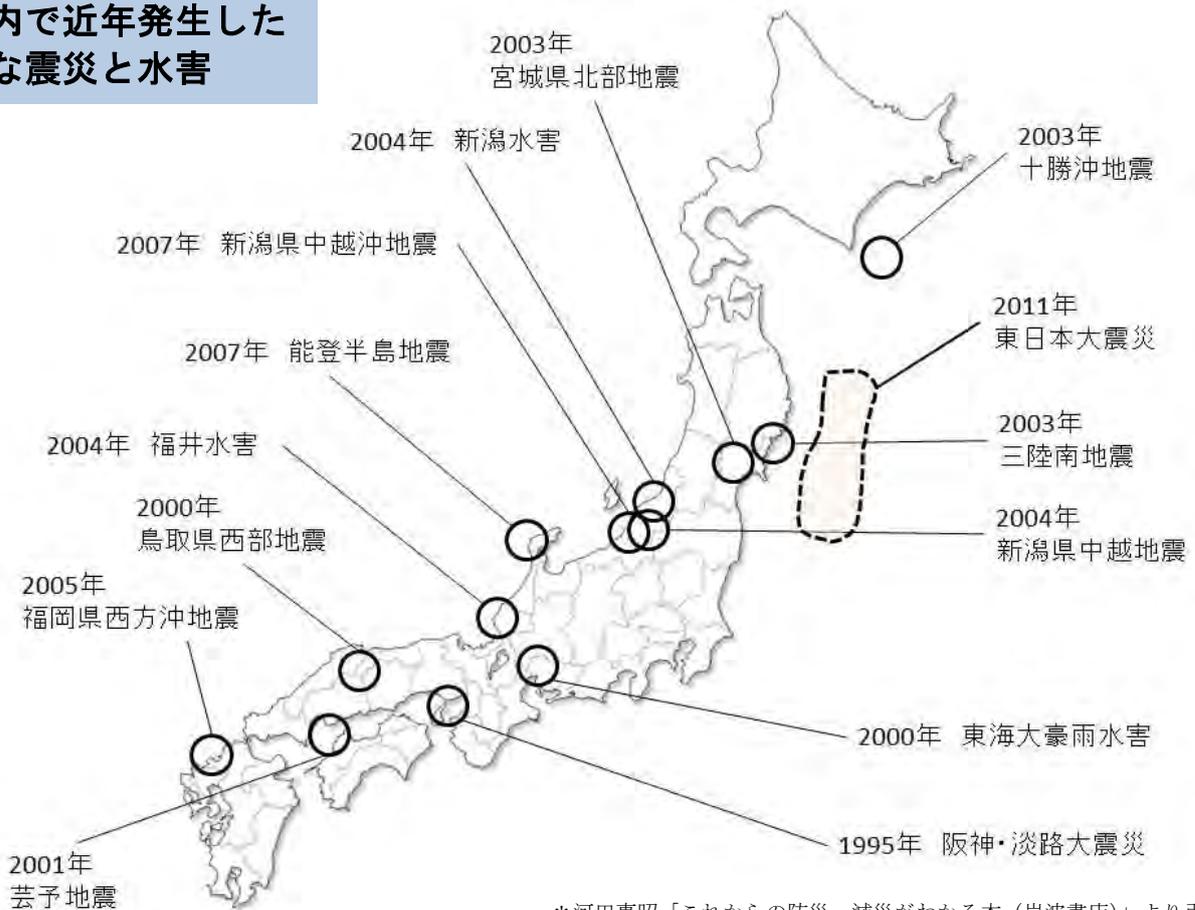
中野区立野方図書館 東京都中野区野方3-19-5

TEL：03-3389-0214 FAX：03-3389-0238

防災の第一歩「災害について知る」

地震や津波、台風、火山噴火など、それ自体はひとつの自然現象に過ぎません。人々の生活にダメージを与えたとき、はじめて、自然災害と呼ばれるようになります。そのため、同じ自然現象でも、起きた場所や地域の特性によって、災害の規模や特徴は大きく異なってきます。防災について考えるときは、地震や風水害などの基礎的な知識とともに、地域の特性を理解することがとても重要です。

国内で近年発生した 主な震災と水害



◆環境の変化が災害の質も変える

周囲を海に囲まれ、不安定なプレート（岩盤）の上に位置する日本は、世界有数の地震大国というだけでなく、常に大雨や台風の脅威にもさらされています。ひとつの災害が発生したあと、続けざまに地震や台風など別の災害に襲われるケースもよく見られます。近年は地球温暖化による海面上昇や海流の変化などの影響で、台風は大型化し、集中豪雨はより激しさを増してきました。都会ではヒートアイランド現象の影響で積乱雲が発生しやすくなり、局所的な大雨が増加。宅地化や道路の舗装などの都市化にともない、河川の氾濫や浸水、がけ崩れ、地震による液状化災害も増えています。

東日本大震災では、巨大津波と同時に、深刻な原発事故が起きました。

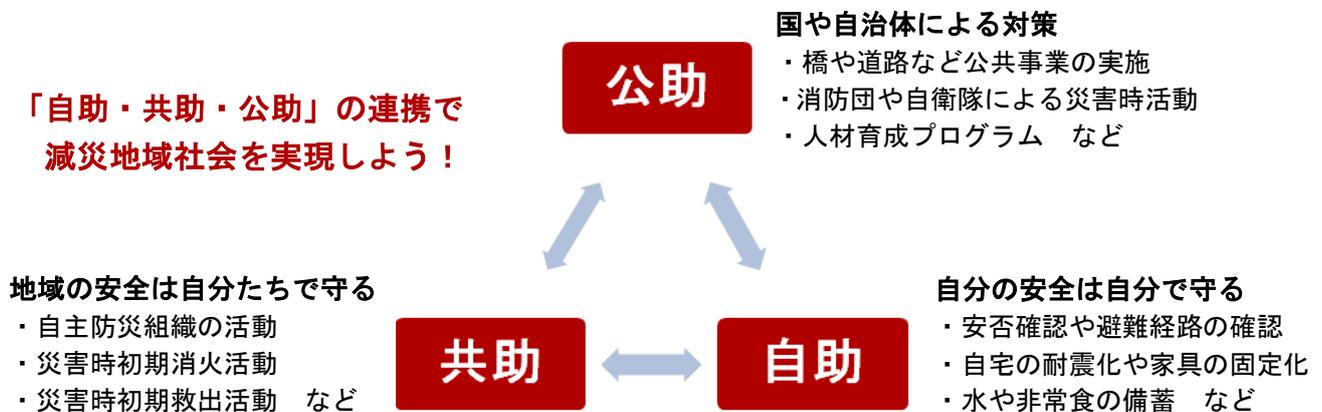
もし東京に直下型大地震が発生した場合は、木造建築が建て込む密集市街地域での同時多発火災や大規模延焼などが危惧されており、その改善が急務となっています。

「防災まちづくり」の取組み

「防災まちづくり」とは、住みやすく災害にも強い地域社会を、自治体や企業、住民が協力して作っていくことをいいます。防災の基本である3つの理念「自助」「共助」「公助」が、バラバラに動くのではなく、お互いに連携をとることが必要不可欠です。

防災対策でいちばんの基本。それは自分で自分自身や家族・財産を守ることです。地震が起きたとき、とっさに自分の身を守ることは自分にしかできません。そのための備えや行動を「自助」と呼びます。また、近隣住民で協力して地域を守ることを「共助」といいます。災害時、警察や消防を待っていても助からない命や家を救えるのは、地域の隣人たちです。「公助」は、自助や共助ではどうにもならないこと、たとえば災害に備える公共事業や大規模な救出活動、災害後の復旧や復興などを担います。

防災まちづくりでは、これら3者がそれぞれの防災力を高めつつ、協力態勢を築くことが大切です。



地域防災こと始め「災害図上訓練 (DIG)」とは？

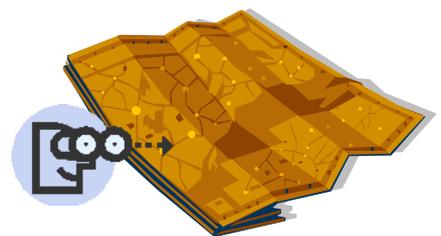
実際に地域防災に取り組むとき、まずは何をしたらよいのでしょうか？ 始めの第一歩として、最近注目を集めているのが、「災害図上訓練 (DIG)」です。

地域防災への取組みは、災害が発生したときに「どんな問題が起こるのか？」を想定することから始まります。しかし、具体的にイメージするには、地域の特性や災害に対する弱点を理解しなければなりません。「災害図上訓練 (DIG)」はそのための有効な手法のひとつ。DIGとはDisaster (災害) Imagination (想像) Game (ゲーム) の略で「ディグ」と読みます。DIGには「掘り下げる」という意味もあります。地域の地図をDIGの参加者が囲んで意見を出し合い、地図上に情報を書き込んで災害時の課題を見つけ出していく…そんな作業にピッタリの名称ですね。

課題が見つかって初めて、その地域ならではの対策を考えることができます。

DIGにはじまる地域防災活動のメリット！

- 地域住民や参加者の興味を引きやすい
- 防災について自分自身で考えるようになる
- 地域についての理解が深まる (まちの魅力も再発見！)
- 地域コミュニティの活性化につながる など



参考文献：瀧本浩一「地域防災とまちづくり (イマジン出版)」

* 中野区で地域防災活動や図上訓練を希望する方および団体は中野区 地域防災担当までお問い合わせください。

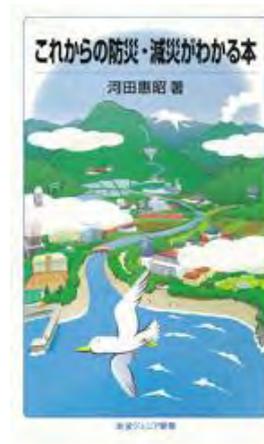
防災まちづくり おすすめ本



『地震の日本史』

寒川旭／著
中央公論新社
2011年
(453.2 サ)

過去数千年に及ぶ地震に関する文字記録と地震痕跡、さらに近年の活断層調査の成果を加えて、縄文時代から現代までの大地震を網羅した一冊。日本の歴史を地震の連鎖として描いた異色の読み物です。一人娘を地震で失った山内一豊夫妻の悲劇など、震災にまつわる数々の人間ドラマも多数紹介。



『これからの防災・減災がわかる本』

河田恵昭／著
岩波書店
(岩波ジュニア新書)
2008年
(YA369.3 カ)

これからの災害にはどのように対応すればよいのでしょうか。著者は日本と世界で最近起こった災害の特徴や被害、災害の起こるメカニズムなどを分かりやすく紹介しながら、日本の災害対策の現状にも鋭く言及。今後の具体的な減災のあり方や適切な危機管理能力の必要性を痛感させられます。



『それでも「木密」に住み続けたい!』

後藤治 他／著
彰国社
2009年
(518.8 ソ)

防災面でさまざまな危険性をかかえる木造密集市街地、いわゆる「木密」。早急な改善が叫ばれる一方、木密ならではの趣や風情を愛する人も多いため。本書では、歴史保存や都市計画、防災の専門家が一堂に会し、木密の魅力と安全性を両立させる防災まちづくりについて、具体的な提案を掲げます。



『目からウロコの防災新常識』

山村武彦／著
ぎょうせい
2010年
(369.3 ヤ)

環境や社会の移り変わりとともに、自然災害のもたらす被害やリスクもまた変化しています。これまで常識とされていた身近な防災知識もいまや誤った思い込みのことが少なくありません。本書で詳細な具体例に基づいて説かれる災害対策は、どれも実用的で、なるほどと頷かされることばかりです。



展示図書リスト

書名	著者名	出版社名/発行年	請求記号
----	-----	----------	------

災害を知る

未曾有の大災害と地震学 - 関東大震災 -	武村雅之 / 著	古今書院 / 2009	369.3 タ
激化する自然災害 (ニュートンムック)	水谷仁 / 編	ニュートンプレス / 2009	450.9 ゲ
地震の日本史 増補版	寒川旭 / 著	中央公論新社 / 2011	453.2 サ
火山噴火 予知と減災を考える	鎌田浩毅 / 著	岩波書店 / 2007	453.8 カ
災害列島日本の地盤を探る	前野昌弘 / 著	日刊工業新聞社 / 2009	511.2 マ

防災について調べる

本当に使える企業防災・危機管理マニュアルのつくり方	山村武彦 / 著	きんざい / 2006	336 ヤ
これからの防災・減災がわかる本	河田恵昭 / 著	岩波書店 / 2008	YA369.3 カ
自然災害ハンドブック	山と溪谷社 / 編	山と溪谷社 / 2011	369.3 シ
これからの都市水害対応ハンドブック	末次忠司 / 著	山海堂 / 2007	369.3 ス
災害がほんとうに襲った時	中井久夫 / 著	みすず書房 / 2011	369.3 ナ
防災の決め手「災害エスノグラフィー」	林春男 他 / 著	日本放送出版協会 / 2009	369.3 ボ
いま考えたい災害からの暮らし再生	山中茂樹 / 著	岩波書店 / 2010	369.3 ヤ
地震と防災	武村雅之 / 著	中央公論新社 / 2008	453 タ
地下の活用がよくわかる事典	青山やすし / 監修	PHP 研究所 / 2008	510 チ

防災に地域で取り組む

まちづくりの実践	田村明 / 著	岩波書店 / 1999	318.6 タ
つくってみよう! まちの安全・安心マップ	傘木宏夫 / 著	自治体研究社 / 2008	318.8 カ
地域防災とまちづくり	瀧本浩一 / 著	イマジン出版 / 2011	369.3 タ
防災対策と危機管理	市町村アカデミー / 監修	ぎょうせい / 2005	369.3 ボ
高めよ! 防災力	務台俊介、レオ・ボスナー / 著	ぎょうせい / 2004	369.3 ム
それでも、「木密」に住み続けたい!	後藤治 他 / 著	彰国社 / 2009	518.8 ソ
路地からのまちづくり	西村幸夫 / 編著	学芸出版社 / 2006	518.8 ニ
まちづくりへの新発想	三好庸隆 / 編著	建築資料研究社 / 1998	518.8 ミ

自分と家族を守る

一人暮らしの地震対策ハンドブック	志田雅洋 / 著	新風舎 / 2004	369.3 シ
大地震! とっさの行動マニュアル	山谷菜樹 / 著	廣済堂出版 / 2011	369.3 ヤ
目からウロコの防災新常識	山村武彦 / 著	ぎょうせい / 2011	369.3 ヤ
大地震にそなえる自分と大切な人を守る方法	渡辺実 / 著	中経出版 / 2011	369.3 ワ
地震なんかには負けない! 幼稚園・保育園・家庭防災ハンドブック	土木学会巨大地震災害への対応検討特別委員会 他 / 編	学習研究社 / 2006	376.1 ジ
地震と住まい	日本建築家協会災害対策委員会 / 著	技報堂出版 / 2010	524.9 ジ

防災まちづくりについて詳しく調べるには

ここでは野方図書館、および他の中野区立図書館に所蔵のある資料をもとに、基本的な調べ方をご紹介します。

1. キーワードを集める

様々なキーワードを使うことで、資料を効率的に検索できます。

地震 火災 風水害 震災 防災 液状化 ハザードマップ 災害防止 危機管理 地域防災
減災 協働 密集市街地 自助共助公助 防災訓練 自主防災組織 図上訓練 まちづくり など

2. 基本的な用語を調べる

防災まちづくりに関する用語の意味を把握しましょう。

資料情報	請求記号	所蔵館
現代用語の基礎知識 2011 自由国民社 2011年	031 ゲ 11	野方
山村流 災害・防災用語事典 山村武彦／著 ぎょうせい 2011年	519.9 ヤ	野方

3. 図書を探す

※テーマの棚に行って探します。

請求記号	分野	請求記号	分野	請求記号	分野
317	行政	369.3	災害	518.8	都市計画
318	地方自治	453	地震学	524.9	防災構造

※防災に関する統計や計画などの情報も調べてみましょう。

資料情報	請求記号	所蔵館
防災白書 平成 22 年版 内閣府／編 2010 年	369.3 ボ 10	中央（禁帯） 江古田
消防白書 平成 21 年版 消防庁／編 2009 年	317.7 シ 09	野方
中野区地域防災計画（平成 19 年修正）本冊 中野区防災会議／編 2008 年	F7A07	野方
中野区地域防災計画（平成 19 年修正）別冊 中野区防災会議／編 2008 年	F74A07 - B	野方

※禁帯：貸出はできませんが館内閲覧はできます。

※利用者開放端末「OPAC（オーパック）」で。

資料のタイトルや著者名、出版社名などから、中野区立図書館所蔵の資料を検索できます。

中野区立図書館のHPからも検索できます。<http://www3.city.tokyo-nakano.lg.jp/tosho/>

※国立国会図書館の蔵書目録「NDL-OPAC」で。

国内で刊行されている図書・雑誌を検索できます。<http://opac.ndl.go.jp/>



4. 新聞・雑誌で調べる

野方図書館では〔朝日、読売、毎日、東京、日経、産経、スポーツニッポン、ジャパントイムズ〕計8紙の原紙を3か月間保存。それ以前に関しては朝日新聞のみ過去20年間の縮刷版を所蔵。雑誌コーナーには、防災関連の専門雑誌「予防時報」（2011年春号で終了）なども置いてあります。

例）『予防時報』244号（2011年冬号）掲載「放送のデジタル化と防災情報」など。

なお、中央図書館では、参考資料コーナーの利用者開放インターネット端末から、以下の有料データベースサイトを無料でご利用いただけます。

データベース	サイト運営	収録期間と主な内容
日経テレコン	日本経済新聞社	1975年からの日経4紙（経済・産業・金融・流通）の記事
聞蔵Ⅱビジュアル	朝日新聞社	1926年から1945年までの朝日新聞紙面イメージ 1945年から当日の新聞までの記事 ほか
MAGAZINEPLUS	日外アソシエーツ	1981年からの一般誌・総合誌の雑誌記事検索や学術論文

5. インターネットを利用する

（財）東京都 防災・建築まちづくりセンター まちや住まい、建物の安全安心をテーマに活動。
<http://www.tokyo-machidukuri.or.jp/>

（独）防災科学技術研究所 自然災害のメカニズムや防災の技術開発などに関する研究を行う。
<http://www.bosai.go.jp/index.html>

防災・危機管理e-カレッジ 災害の基礎知識・危機管理を紹介するサイト。（総務省消防庁）
<http://www.e-college.fdma.go.jp/>

消防防災博物館 消防防災を楽しく学べるインターネット上の仮想博物館。（総務省消防庁）
<http://www.bousaihaku.com/cgi-bin/hp/index.cgi>

「東京都の防災対策の手引き」（東京都防災ホームページ）
<http://www.bousai.metro.tokyo.jp/japanese/knowledge/tebiki.html>

「自主防災組織の手引き」（総務省消防庁）
http://www.fdma.go.jp/html/life/bousai/bousai_2204.pdf



6. 防災関連の政府機関・自治体

内閣府 中央防災会議など防災関連組織を統括。サイトでは防災白書など多くのデータを掲載。
<http://www.cao.go.jp/>

国土交通省 気象庁や防災センターを統括。サイトから日本全国のハザードマップの閲覧可。
<http://www.mlit.go.jp/index.html>

総務省消防庁 サイトでは防災や救急に関する生活に密着した情報や災害の映像データ等公開。
<http://www.fdma.go.jp/>

東京消防庁 管轄の池袋・本所・立川の各防災館では防災体験学習（予約制）もあり。
<http://www.tfd.metro.tokyo.jp/>

中野区役所 都市基盤部 防災やまちづくりの分野を担当。以下は中野区の防災・防犯ページ。
<http://www.city.tokyo-nakano.lg.jp/shozoku.html>

（野方図書館 2011年8月27日作成）

野方図書館便り vol.2

◆ 中野区防災担当者に聞く「防災のススメ」

防災は日頃からの備えが大切ですが、どのようなことを心がければよいのでしょうか。中野区防災担当の方に、「わたしたちに出来ること」を聞きました。

「日頃の備えは怠りなく」

大きな災害は日本のどこでも起こる可能性があります。東京も例外ではありません。地震はもちろんですが、台風や集中豪雨なども視野に入れて、普段の生活から災害に備えることが大切です。地震が起きたとき、家具類が倒れると、けがをしたり、外に出る避難経路を塞いでしまうことがあります。家具類は倒れないようにしっかり固定してください。ラジオや懐中電灯、長期保存ができる非常食などを、いざというときに持ち出せるような備えも必要です。また、ふだんから召し上がっている食品にも、長期保存ができる食品があります。レトルト食品やクラッカー類・ミネラルウォーターなど、少し多めに備えておくと、いざという時に役に立ちます。

「安否確認について」

災害が起きた場合、自分や家族の安全を確認したら、隣近所に声を掛け合い、安否を確認することが必要です。また、災害時は電話が繋がりにくい場合が考えられます。事前に災害用伝言ダイヤル（171）の使い方や、複数の連絡手段を想定しておくこともオススメします。集合場所を具体的に決めておくなど、災害時の行動を家族で共通認識しておくといいですね。また、電車が止まる、道路が渋滞するなど、日頃利用している交通手段が使えなくなることを想定して、勤務先からの帰宅経路や避難場所を知っておくことも大切です。しかし、夜間で停電している場合には無理をせず、職場や安全な場所で、明るくなるのを待ってから帰宅（行動）することが、二次災害の予防になります。

「ご近所づきあいのススメ」

東日本大震災のように、大災害の発生直後など、自治体や警察・消防が十分に対応できない場合は、地域の方同士で助け合うことが被害を減らす大きな力となります。いざというときに協力しあえるように、日頃からのご近所づきあいがとても大切です。これを共助と言いますが、被害を減らす(減災)のための大きな力として、ますます重要視されています。

【中野区の防災事業&取組み案内】

項目	内容	備考
平成23年度中野区総合防災訓練	8月28日(日)9:00から 【実施地域・主会場】 鍋横地域・中野本郷小学校 上高田地域・白桜小学校	避難所開設・運営訓練と、様ざまな防災訓練が体験できる。
平成23年度中野区災害医療救護訓練	11月20日(日)詳細は未定 【実施地域・主会場】 東部地域・第十中学校	応急手当てや心肺蘇生訓練や、医師会などが運営する医療救護所と、住民の連携に重点を置いた訓練
◎住宅の耐震化促進事業		

※詳しくは中野区HP、もしくは中野区 地域防災担当まで。◎については耐震化促進担当まで。